

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2019年 第20週（5月13日～5月19日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排せつ物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病 増加」

第20週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は2,993例であり、前週比30.8%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ6.72、3.08、2.55、0.85、0.53であった。

感染性胃腸炎は前週比26%増の1,324例で、南河内10.25、大阪市北部9.85、中河内9.10、北河内7.30、豊能7.09である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比35%増の607例で、南河内8.38、北河内3.37、大阪市西部3.20であった。

手足口病は前週比143%増の502例で、南河内5.63、中河内3.40、堺市3.11である。

伝染性紅斑は前週比28%増の168例で、北河内1.70、泉州1.15、豊能0.91であった。

咽頭結膜熱は前週比21%減の104例で、北河内1.00、大阪市北部・南河内0.69である。

インフルエンザは第19週に非流行期となったため、記載を省略しました。

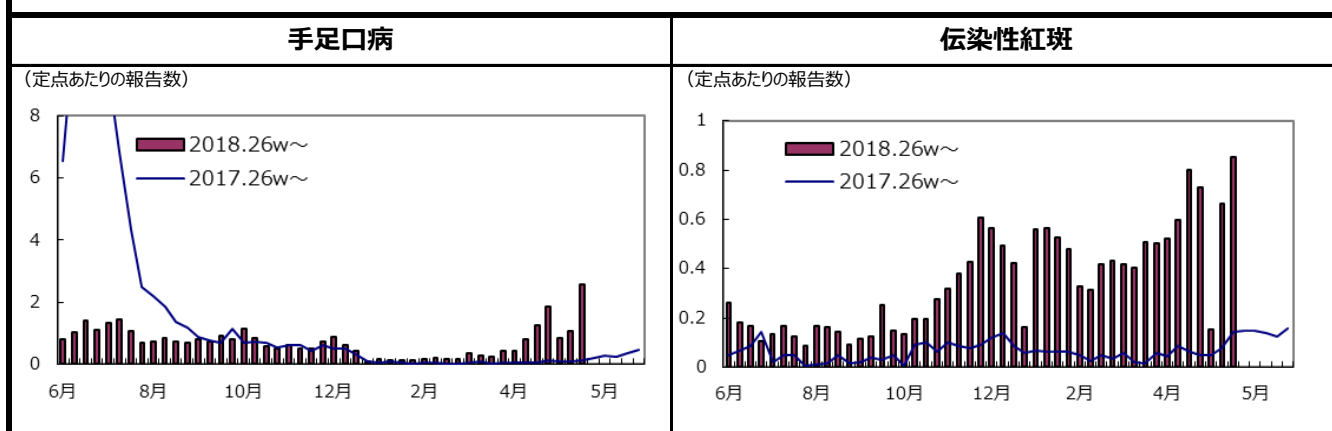


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2019年 第20週5月13日～5月19日）

第20週の順位	第19週の順位	感染症	2019年 第20週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2018年 第20週の 定点あたり 報告数	2019年第20週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	6.72	26%増	8.94	1歳_18%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.08	35%増	3.00	3歳_14%
3	3	手足口病	2.55	143%増	0.13	1歳_54%
4	5	伝染性紅斑	0.85	28%増	0.14	5歳_20%
5	4	咽頭結膜熱	0.53	21%減	0.86	1歳_26%

第20週のコメント

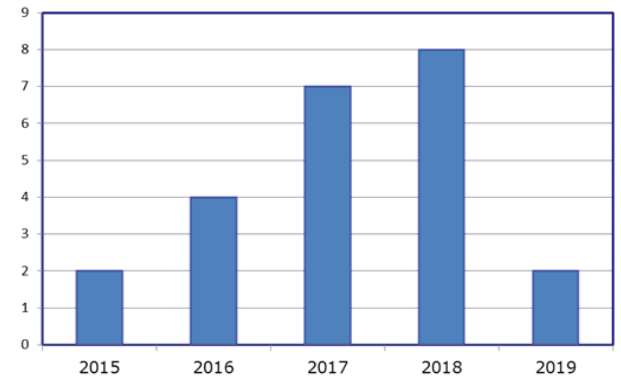
～細菌性赤痢～ 大阪府では、毎年2－8例、報告されている。

全数把握感染症

細菌性赤痢

細菌性赤痢は、赤痢菌を病原体とする感染症である。患者や保菌者の糞便、汚染された手指、食品、水、器物を介して感染拡大する。最近では輸入感染例が主であり、推定感染地は東南アジア、南アジアが多い。潜伏期1～3日で発症し、全身の倦怠感、悪寒を伴う急激な発熱、水様性下痢を呈する。発熱は1～2日続き、腹痛、しぶり腹、膿粘血便などの症状がある。フルオロキノロン系抗菌薬が有効であるが、近年、薬剤耐性菌も報告されている。

(報告数)



[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[細菌性赤痢とは\(国立感染症研究所\)](#)

表2. 大阪府全数報告数（2019年 第20週5月13日～5月19日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症										
細菌性赤痢 (<i>S. flexneri</i> , <i>S. sonnei</i>)	2	2								2
腸管出血性大腸菌感染症	4		1					1	2	26
4類感染症										
デング熱 (1型)	1							1		14
レジオネラ症 (肺炎型)	2						2			24
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1					1				60
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1					1				19
侵襲性肺炎球菌感染症	8			2	1	1	1		3	133
水痘 (入院例)	1			1						10
梅毒	6					1			5	400
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1								1	11
百日咳	15	3	3	1	1	1	1	2	3	364
風しん	1			1						115
麻しん	5		1						4	141
結核 (2019年3月分)	結核 新登録患者数：153名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 53名) (府内累積報告数 425名、内 肺・喀痰塗抹陽性 164名)									

(2019年5月21日 集計分)